



「日本の童謡・唱歌をひろめる会」の西尾運宮委員長（写真右）と、「うたのまち篠山」の青木代表にインタビューしました

人が好き まちが好き

街かど Report リポート



リポーター 木戸 雅子さん (河原町)

世代を超えて歌い継ごう

「丹波篠山童謡・唱歌まつり」

童謡と唱歌があふれるまちに

平成19年3月にたんば田園交響ホールで約830人の皆さんが参加し開催された第1回「丹波篠山童謡・唱歌まつり」。

世代間の断絶や人間関係の希薄化を心配されていた故・河合隼雄文化庁長官と篠山の音楽推進会議・西尾昭会長との間で、童謡や唱歌を家族と地域の皆さんが楽しく歌うことで、きずなを深めてもらおうと話されたことがきっかけとなりました。

「うんぽう追いつし かの山 小鮎釣りし かの川」。「この一節は、皆さんよくご存じの童謡「故郷」です。日本の美しい童謡や唱歌は、わたしたちの心を和まし、そう快な気分にならせてくれます。

現在、市内では童謡や唱歌を歌い継ぐ愛好グループが17団体あり、熱心に活動されています。今回は、丹波地域の童謡・唱歌の愛好グループの皆さんが堂に集まり、3月9日（日）正午から、たんば田園交響ホールで開かれる第2回「丹波篠山童謡・唱歌まつり」を皆さんに紹介したいと思います。

動に広がればいいですね」と話されます。

「丹波篠山童謡・唱歌まつり」へ行こう

3月9日に開催の第2回「丹波篠山童謡・唱歌まつり」では、文化庁が日本全国から募集を行い選定された「親子で歌いっこ」日本の歌百選の全曲101曲が歌われます。参加者全員による「故郷」の合唱で幕



昨年の「丹波篠山童謡・唱歌まつり」の様子。特別出演のテノール歌手・畑儀文さんと篠山少年少女合唱団の皆さんが、オルガンの演奏に合わせて童謡を披露しました

が開くと、18団体の愛好グループが順に3曲ずつ披露されるほか、テノール歌手・中塚昌昭さんやソプラノ歌手・中村朋子さんたちの出演もあり、会場を盛り上げます。

童謡と唱歌に親しもう

今回、わたしは愛好グループの1つ「うたのまち篠山」（青木御代表）の練習を見学しました。「うたのまち篠山」が結成されたのは、平成19年1月のこと。篠山小学校区の自治会長でもある青木代表が、地区の皆さんに呼び掛けられたのが始まりでした。

青木代表は、「会員の皆さんは、月1回の練習をとても楽しみにされていて、中には、待ちきれずに開始1時間前から来られる方もいるんです」といいます。また、「日常の生活に歌を取り入れることは、生活して



童謡や唱歌を楽しく歌われる「うたのまち篠山・せせらぎ」の皆さん。本番に向けて練習に熱が入ります

いくためのエネルギー源にもなっているようです」と話されていました。わたしが訪れた1月9日には、「丹波篠山童謡・唱歌まつり」の課題曲でもある「かあさんの歌」「リン」の唄」などの6曲を一生懸命に練習されていました。どの曲も小さなころから口ずさんでいるものばかりで、とても懐かしかったです。そのうえ、会の雰囲気も和やかで、楽しく歌われていたのが印象的でした。わたしは、篠山の皆さんが童謡や唱歌に親しみ、家族や地域ぐるみでの交流が広がっていくといいなあと思いました。